

飯山

飯山は川島方面から見ると確かに名峰富士山の山容とそっくりである。だから八幡の先人達は飯山を備後富士、八幡富士と称し、こよなく愛してきたと言えよう。内藤正作詞の「八幡村歌」においても「雲に聳ゆる備後富士 平和の姿うるはしく 萬代かけてかはらぬを 玉とかしづく人心」と高らかに詠んでいる。

だが肝心の富士山は火山活動で出来た山で、どこから見ても雄大なすそ野を持った美しい独立峰である。いっぽう飯山は東の竹森方面から見ると、白滝山から平岩をへて飯山までなだらかではあるが連峰を形成しているのが分かる。飯山は道後山、猫山、白滝山とほぼ一直線に並んでいるが、何れも地下深くで、ゆっくりと固まった塩基性の火成岩類で出来ている。飯山は斑糲岩や輝緑岩で出来ており、輝緑岩は磨くと青くみえるので地元では青石と云ってきた。地下深くから隆起してきた岩体が次第に浸食されて、現在の姿になったものと考えられる。

もちろん頂上部からすそ野にかけての美しい緩傾斜面の上には、長い地史の間に三瓶山などの火山灰が積もったり、氷河時代の浸食活動を受けたりし出来た。

道後山方面から飯山を見ると、屏風のようにそびえ立つ飯山とそれより一段低い吉備高原面が続いているのがよく見える。八幡が吉備高原の始まりであることがよく分かる。

また飯山の麓である川島・保田は帝釈川の源流域であり、そのたゆみない水流が帝釈川の渓谷を作ったのである。

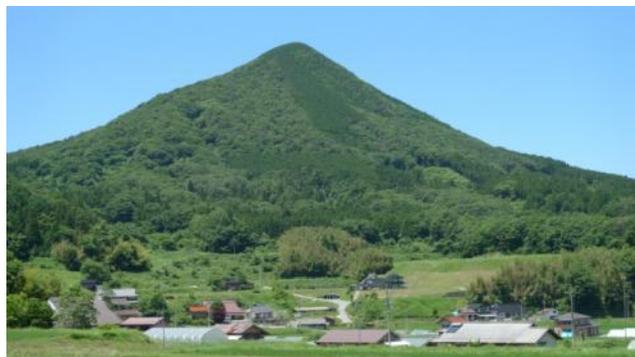
これらは皆さんから寄せられた飯山の写真である。飯山百景と表現できるのかも知れない。



川島方面より



田殿方面より

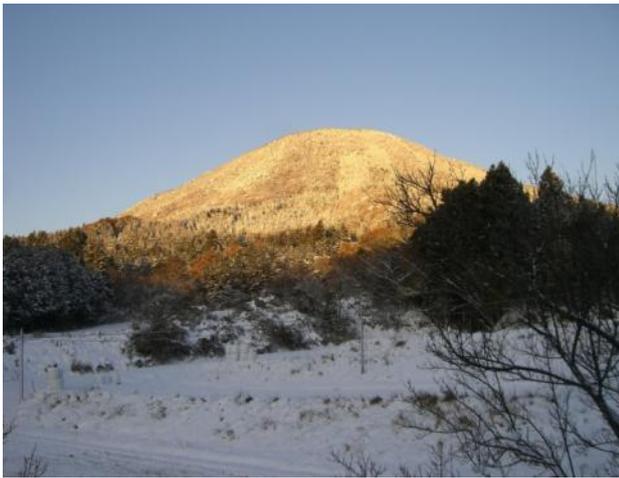




営農センターより



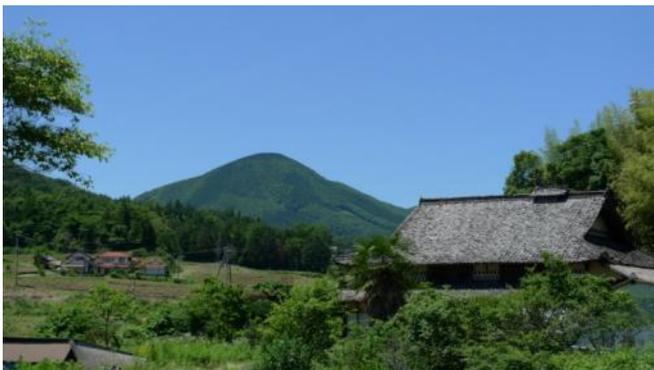
八幡自治振興センターより



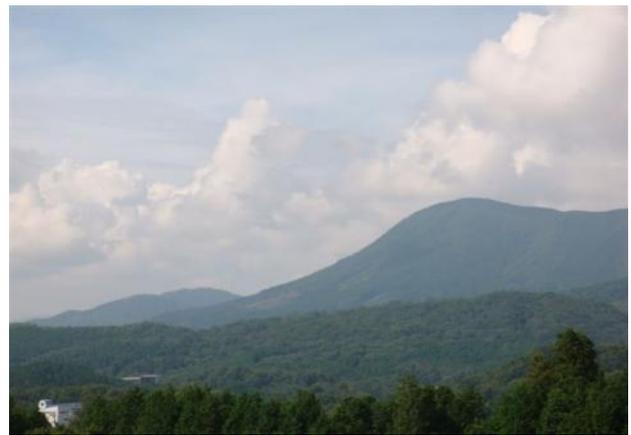
森3組からの冬の飯山



田黒方面より



三草より



小奴可加谷方面より